

遼摩高校PTA広報

Yurinoki



百合樹

第17号

平成24年10月2日
島根県立遼摩高等学校PTA

ユリノキ

本校が明治36年、大森に創設された際に植栽された由緒ある樹木である。創立100周年の記念樹としても採用された。

PTA会長あいさつ

瓜坂 秀史



平素よりPTAの活動に
対して、積極的に参加いた
だいておりますこと、心より感
謝を申し上げます。
今回は「アイデンティティ

ー」ということについて注目してみました。
簡単に言えば「自分らしさ」ということですが、これを実感しながら、「新たなものに挑戦する心」を持ち続けることが成長に繋がると言われています。この「アイデンティティ」を探し出すには、まず「社会における自分にふさわしい『居場所』を探し出すこと」その上で「自分自身に納得感をもつこと」だと言われています。

そこでこの高校生時期を捉えようと、心理学の世界では「アイデンティティ」拡散の時期とも言われ、例えば「自分は駄目だ」といった「否定的アイデンティティ」を持つてしまふような状況に陥りやすいとされています。その理由は、自分の「居場所」が、親を中心とした家庭から、大人との関わりが多くなる社会へと移り変わる過渡期で、精神的に見て不安定になりがちな時期だからだそうです。この難しい時期を充実したものにするには、先生方と我々親が連携して支えることが必要だと思えます。

子ども達にはこの「アイデンティティ」(今の、本当の自分らしさ)をみつけ、夢の実現に向けてより良いステップを踏んでもらいたいものです。そのために必要なことは、文化・芸術・スポーツなどの多くのものに触れること。また、多くの経験を積んだ先人達の話

聴き、視野を広げることが大切だと考えます。先日の全国高P連和歌山大会で「はやぶさ」プロジェクトマネージャーを務められた川口淳一郎氏も「学校で学ぶことはもちろん大事だが、色々なものを吸収し、そこから新たなものへと『創造』し『イノベーション』(飛躍)することがすばらしい！」と語っておられました。



遼摩高校の生徒達には、できるだけ多く良いものに出会い、刺激を受けてもらいたいと思います。そのためにPTAとしてもしっかりと活動していかなければなりません。皆様の子どもさんが、それぞれ誇れるアイデンティティを持ち、未来に向かって羽ばたいていけるよう、PTA活動への更なる積極的なご参加をお願いします。

校長あいさつ

大島 淳



平素より保護者の皆様方には本校の教育活動に対して、ご支援・協力をいただき誠にありがとうございます。

それにもまして、この夏の暑さには驚きました。近年では断トツの暑さではなかったでしょうか。そのような中でも生徒達は補習・実習・部活動等に、また夏季休業後半のところでは体育祭準備に汗を流していました。

さて、今日は年一回おこなっています保護者面談について、私の気持ちを箇条書きで述べてみたいと思います。

①担任は普段の生徒の活動を見て、頭の中にあることを整理し、生徒一人ひとりを育てるための構想を練って欲しい。

②保護者の皆様は平素は多忙で、なかなか子供さんの事をじっくり考える機会がない。この面談を機に子供さんの生活などを見直し、子供さんと将来のことについて話し合う機会にして欲しい。

③生徒自身は自分のことで話し合われているわけだから、この際自分を見つめ直して将来につなげて欲しい。

保護者面談は右記の三点を軸に「あれが良かった」と過去の反省をするためのものではなく、将来の発展のために行うものだと思います。

四月からの成績の状況や、特に三年生は進路決定などの重要課題があります。意義あるものにしていただきたいと思えます。

本校では、夏休みと秋のしなめ教育の日の二回、面談を企画していますが、「面談は二回で終わり」ではありません。

学年保護者会をはじめ、保護者と担任が顔見知りになること。また、電話や家庭訪問などにより、連絡を密にして生徒のために発展的になって欲しいと思えます。

これから一年でもっとも過ごしやすい季節をむかえることとなります。どうか保護者の皆様、子供さんともにもうひと頑張りをお願い申し上げます。

保護者の声

「高校生活で思う事」

PTA理事 月森 博美

我が家の子は皆、遷摩高校でお世話になっていきます。私自身もそうなので遷摩高校には縁があるなど感じています。遷摩高総合学科の良いところは、学生の頃から将来の事を考えた勉強が出来たり、インターンシップで学べたり、希望すれば色々な事が学べる学校ではないかと思えます。校内活動だけでなく、学んだ事を外にアピール、発信したりと、多種多様な経験が出来る学校だと思います。あとは、本人のやる気、本気、根気にかかっています。真剣に進むべき目標を決めて、高校生活を有意義なものにしていくって下さい。

「生徒さん」から社会人に」

PTA理事 森 章裕

我が家には今年三月に本校を卒業した次男がおります。無事市内就職し、入社二日目から、家を一番早く出て、一番遅く帰る生活を送っています。わりと楽な高校生活を過ごしていた彼には、大変なギャップだと思えます。しかし、今日も元気良く「行って来ます」と一番に出動して行きます。その顔はだいぶ社会人らしく見えます。進学も就職するための手段です。遷摩高生のみなさんが、企業、地域、友達に必要とされる社会人になって、幅広く活躍してほしいと思います。

PTA理事 榎井 奈津美

夢と希望を抱いて入学してから五ヶ月が経ちました。何事にも楽しさを求める我が娘は、

毎日がとても新鮮で部活や勉強を楽しみながら取り組んで親としても嬉しく思っています。初めての体育祭、昼からですが見に行きました。とても感動しました。三年生達の楽しそうな姿、一生懸命に取り組む姿、色々、悩み苦しんだ時期もあっただろうと思います。それを乗り越え素晴らしい体育祭でした。これから我が子も、たくさんを経験し悩むんだらうと思います。応援しています。頑張れ我が子！頑張れ遷摩高生！！

PTA評議員 新治 弘念

私は、本校を数十年前に卒業いたしました。たいへん懐かしく、そして思い出が沢山あります。末娘が本校に入学した折、何かしらとても嬉しく感じました。また、仁万田台の風景や校舎は変わりましたが、充実した高校生活を日々送ってくれますことを願っております。縁ある皆様よろしくお願い致します。

教職員の声

「仁心・勤労・創造」

教務部長 松田 哉

今年も猛暑の夏だった。夏休み後の授業への生徒たちの取組を心配したが、保護者の皆さんのご協力により、各教室に業務用の扇風機がついた。休み明け、授業初日、この日もそれまでのうだるような暑さに変化はなく、教室で課題テストの監督をしながら、私は扇風機の有難みを感じていました。その時、扇風機のブーンという音にかき消されるように、どこからか小刻みに繰り返される心

地よい音が聞こえてきた。窓に近づいて中庭を見下ろすと、長袖長ズボンの作業着に表わら帽をかぶった職人さんが、脚立にまたがり松の剪定をしていた。職人さんは小バサミを手にとって、手際よく一つ一つ松の枝を落としていた。テストが終わるころ再び中庭を覗いて見ると、松はすっかりきれいななり、涼を楽しんでるかのようであった。そこで一句詠んでみた。「職人の 手バサミ一本 カチカチと 生まれ変わりし 仁心の松」松の気持ちに寄り添い、この猛暑の中黙々と仕事を進め、新しい姿に生まれ変わらせる。職人の技と魂を見ることができた。その姿に感服するとともに、このようなプロの卵を育てているのが自分の仕事であると改めて思った。

「特性を活かす時代」

進路指導部長 大野 真由子

進路指導室には毎日多くの会社や学校の方がいらつしやいますが、最近「ぜひ女子の方に自分の仕事として考えて欲しい。」と言われた分野が二つあります。どちらも私の中では、男子生徒の進む道と思いついていたもので、驚きました。

一つ目はJ&Rという会社でした。乗客の方へのきめ細やかなサービスのため、これから女性の採用を増やしたいとのことでした。もう一つは、自動車整備の仕事です。軽自動車を扱う会社では女性の整備士さんを求めています。なぜだかわかりますか？軽自動車のユーザーは圧倒的に女性が多く、その女性ユーザーの気持ちや上手に握めるのは同じ女性なのだそうです。単に女性が男性の分野に進出するだけではありません。女性の

特徴を上手にたくさんの方で活かす時代なのです。女性の皆さん、考えてみてはいかがでしょうか。また、男子の皆さんも思い込みを捨て、いろいろな分野に目を向けてみるのもいいかもしれません。

「食育のすすめ」

一年学年主任 宮崎 邦哉

皆さんは、家庭で家族と一緒にご飯を食べていますか？私は、通勤に片道五〇分かかると朝食は、なかなか一緒に食べられませんが、夕食は出来るだけ一緒に食べるようにしています。話題は、その日にあったことが中心で、今なら体育祭や文化祭の準備作業、部活動、友人、授業の話など、諸々です。お互い人間ですから、日によって気分がいい日もあれば沈んだ日もあります。笑いもあれば、たまには（極たまですが）雷を落とすことでもあります。ただ、楽しい食事を介してお互い気持ちを共有出来るのがいいと思っています。支えにもなりますし、気持ちが分かれば、対応の仕方も変わってきます。食事を通じて、家族と気持ちを共有してみたいかがでしよう。

「一瞬の勝負にかける努力」

二年学年主任 山根 琢博

今年の夏、七月から八月にかけてロンドンオリンピックが開催されました。多くの皆さんがテレビで声援を送ったことでしょう。日本のメダル獲得総数は過去最高で、特に団結力・結束力・チームワークが称賛されました。惜しくもメダルには届かなかった選手も持つ最大限の力を発揮されたことと私は勝手に

思っています。ところで、オリンピックの種目は個人・団体問わず多種多様で、覚えきれないほどあります。ここで、表題に掲げた「一瞬の勝負」について考えてみます。水泳・陸上・レスリング・柔道などは競技・試合時間が一〇秒から五分程度しかない種目です。そのわずかの時間のために四年間、選手は血のにじむ努力を続けてきているものと思えます。けがで泣いたり、スランプで挫折感を味わったりしながらも立ち直っていくのだと思います。

さて、生徒の皆さんは必ず、就職か進学をめざして高校生活を送っています。就職試験や入学試験のわずか十分間から数時間のために二年と半年、努力をしていかななくてはなりません。普通教科や専門教科の勉強はもちろんです。部活動、生徒会活動、友人との交流などあらゆる面でがんばってほしいと思います。その二年と半年の途中途中でうまくいかない時があっても決して努力を怠ることなく、努力し続けていってほしいものです。自分のためになるのですから。

高P連中四国大会参加報告

総務部 奥野 和浩

七月十三日に徳島市で行われた「中国・四国地区高等学校PTA連合大会」に曾田副会長と参加しました。



三本の研究協議の中で、就職希望者向けの「PTA模擬面接」を毎年九月の第一土曜日を実施している高知東工業高校の発表は、口では簡単に提案出来てもいざ実践となると、PTA会員の熱い思いと、保護者と学校との真の「連携・協力」がなければ難しい事だなとも思います。それが出来る実行力に感心しました。他には「PTA新聞」、「文化祭PTA模擬店」などの取り組みが報告されました。

来年は島根県開催とのこと、本校にも協力が要請が来ると思いますので、会員の皆様よろしくお願ひします。



アトラクション「阿波おどり」

新聞を教材に「いきいき」学習

学校司書 山本 恵美子

今年度も全校で新聞記事を読む「NSノート」学習が始まりました。この実践が評価されて「NIE実践校」に指定され、本校は新聞の無償提供などの特典も利用できるようになりました。身近になった新聞を教材にして意見文を書いたり新聞づくりに取り組んだり、新聞活用学習の仕方も広がっています。こうした学習の成果は一般紙の「ヤングこだま」欄や「青春はつらつ新聞」に掲載され、たくさんの方々に本校生の学習の様子や成果を知っていただくよい機会となりました。

さて、今、生徒の皆さんが取り組んでいるのは、「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募です。課外学習ですが、学校図書館で熱心に課題に取り組んでいる姿を見かけま

す。ご家庭でもぜひ、応援をお願いします。



写真
新聞記者さんの出前授業



新聞記者さんから「青春はつらつ新聞」の紙面づくりの指導を受けているところ

体育祭を振り返って

赤軍 三年一組 柳井 克之

私は分団長という立場ながら入院して練習にほとんど参加できませんでしたが、本当は応援やデコ、衣装に回って、全体を見ないといけなかったのが本当に申し訳ないと思っています。しかし赤軍のみんなは自分のことを分団長として受け入れてくれました。それを心から思ったのは本番の応援合戦でした。自分にはサブライズで紫軍全員が「おかえり」と言ってくれました。最初は状況が理解できず戸惑いましたが言葉にならないくらい嬉しかったです。結果は三位でしたが心に残る体育祭になりました。紫軍の分団長になれて本当に良かったです。

赤軍 三年二組 青井 理恵

私たち赤軍は、三年生にとっては最後とな

る体育祭をとにかく楽しむことを一番に皆で協力しながら準備を始めました。

ダンスでは、短い練習期間で教える三年生はとても大変だったけど、覚えの早い一、二年生のおかげでとても良いものに仕上げることができました。本番ではとにかく楽しむことを一番に、元氣と団結力ではどこにも負けない赤軍は、優勝することはできなかったけど、最高の体育祭を全員で作上げることができました。一、二年生本当にありがとう！三年生支えてくれてありがとう！赤軍の皆が皆で本当に良かった！

青軍 三年三組 吉田 明輝

私たち青軍は、優勝や勝ち負けにはこだわらず、みんなが楽しめる今までにない形の体育祭にしたいと思い、準備をしてきました。そのため意見がぶつかることもありましたが、応援練習が始まり、自分たちの力不足でスムーズにいかない練習に必死についてきてくれる一、二年生に本当に救われました。

体育祭当日は、みんな笑顔で開会することが出来ました。競技、応援ともに楽しむことができ、それだけで満足でした。閉会式の結果発表で、競技、応援、衣装、総合の部で一位を取ることができました。予想もしていなかった結果に感動しました。最高の思い出になりました。



写真でつづる前期の出来事

◆四月



○入学式が挙行されました。男子二十六名、女子五十名、計七十六名の新入生が、希望を抱いて遷摩高校の門をくぐりました。校歌斉唱では、二、三年生の代表が大きな声を響かせました。



○対面式が行なわれました。生徒会長挨拶、生徒会役員紹介、出雲養護学校遷摩分教室の紹介の後、生徒会によるスライド上映と吹奏楽部による演奏が行なわれ、新入生を歓迎しました。



○遠足が行なわれました。一年生は松江フォーゲルパーク、二年生は安佐動物公園、三年生は水木しげるロードへと出かけました。(写真は三年生です)

◆五月



○壮行式が行なわれました。教頭先生、生徒会長からの激励の後、各部代表による決意表明が行なわれました。最後は応援団を筆頭に、全校生徒がエールを送りました。



◆六月

○校内球技大会が行なわれました。地区ブロック大会の予選も兼ねており、バレーボールとソフトボールの二種目で行なわれました。各クラスとも元気一杯に健闘しました。



○仁万の浜清掃が行なわれました。仁摩小、仁摩中、出雲養護学校遷摩分教室の皆さんと共同で行ないました。短時間ででしたが、たくさんのごみを集めることができました。

◆七月



○農産加工品販売環境系列の生徒が製造したジャム、マレード、味噌等の加工品を販売しました。また、今年度から「遷摩高愛すの日」が七、九月の一日に制定され、柿アイスの販売も行なわれました。



◆八月

○一年生進路ガイダンスが行われました。上級学校から講師を招き、ブース毎に説明を受けました。十月からの系列選択へ向け、皆さん熱心に話を傾けていました。



○観光甲子園出場本校から三年ビジネス系列の八名が本選出場しました。「時を刻み夢の世界へいざなう」寝ても覚めても仁摩町ワールド」をテーマにプラン発表を行い、全国観光業協会会長賞を受賞しました。

○体育祭

三十一日、「最高の仲間と砂ぼこりを巻き上げ いざ出陣!!」二〇二二」をスローガンに、恒例の体育祭が行なわれました。総合、競技、応援、衣装では青軍、デコレーションでは赤軍が優勝しました。盆明けから猛暑の中での応援練習、衣装・デコレーションの製作と懸命に努力してきた三年生の皆さん、大変お疲れ様でした。今年度は新種目も増え、入場行進、選手宣誓、各種競技等、学校全体で盛り上がることであった素晴らしい体育祭だったと思います。また、途中小雨の降る生憎の天候の中、多数の保護者、地域の皆様にご来校いただきました。ご声援ありがとうございました。

